



青き楓

島高だより
令和2年12月号
(通巻第177号)
長崎県立島原高等学校
編集: 研修広報部

校長室から

基礎基本に立ち返る

校長 渡邊 孝経

年末のこの時期、あえて基礎基本に立ち返れと言いたい。この時期は大学進学のこと、次の学年のことを意識する時期である。新しい学年になった時、入学した時の初心を振り返って一区切りし、新年を迎えて欲しい。

学習面では、1年生は、学習習慣がつかないままに、授業を聞いてもほとんどわからない。付け焼き刃の勉強になっていなかったか。苦手克服には3か月かかるといわれる。とにかく1つ、冬休み中に苦手克服に着手して欲しい。2年にまで持ち越すと、苦手がさらに苦手になる。3学期は授業時間が少ない、つまり新しいことを学ぶ量が少ない。この時期こそ苦手克服の絶好の機会と捉え、冬休み、春休みで克服すること。「出来ない」と「やらない」は全然違う。

2年生は、志望する学部・学科、大学を明確にすることが、大学進学後を見通した入試対策学習になる。進学後に学ぶ学問を思い描いてみる必要がある。目先のことをきちんとやることはもちろんだが、学習していることが、将来目指すこととつながっていなければ、「自主的学習」にならず、「やらされ学習」になってしまう。また、「進路」とは「進路先を決めること、どんな路にどのように進むか」だけではなく、「路をどのように進むか」も重要である。やるべきこと、やれることを学んで、行動することである。

3年生は入試直前であり、模試の結果が次から次に帰ってくるが、不安になってる暇はない。プラス思考で「やることやれば大丈夫」と思って、最後の最後までやりきって欲しい。新しいことより、できるものを確実にやるのが大切である。ここまでできたら、あとは「気合」あるのみ。

生活面では、基本的な生活習慣の見直しである。何事も「自分で」判断し行動する練習をしてほしい。そうすることが「自立」につながる。

部活動面では、春の大会に向けて、この時期、基礎基本をもう一度やり直すことが大切である。「1に基本2に基本3、4がなくて5に基本」である。それが遠回りのようで実は上達や勝利への近道なのである。試合は負けることはある。でも負けられないために練習する。

何事も基礎基本を極めないとその大事さはわからない。また、好きなことを嫌いになるくらいやると、「本物」になる。つまり、今自分が出来ることを精一杯やる。それ以外に道はない。良い時も悪い時も頑張るだけだ。

このように「時期によって、何度も初心に戻ることはたいせつであり、世阿弥は「初心をわするべからず、時々の初心忘るべからず、老後の初心忘るべからず」と言っている。「時々の初心忘るべからず」とは、こういうことを言っているのではないだろうか。

1月の主な行事予定

4日(月) 3年共通テストプレテスト(～5日)	18日(月) 共通テスト自己採点(3年)
6日(水) 冬季補習(～7日)	19日(火) 3年特別編成授業開始
8日(金) 3学期始業式	表彰伝達式
校内実力テスト①(1・2年)	22日(金) 早朝補習終了・英検③(1次)
9日(土) 土曜講座(3年)	23日(土) 進研実力テスト(1・2年)
12日(火) 校内実力テスト②(1・2年)	24日(日) 進研実力テスト(2年)
15日(金) 共通テスト出陣式	27日(水) マラソン大会(1・2年)
16日(土) 大学入試共通テスト1日目	30日(土) ハイレベル模試(1年)
17日(日) 大学入試共通テスト2日目	駿台模試・全統模試(2年)

2年生修学旅行

2学年 松永 俊

コロナ禍のため、「観光」を残しつつ「生徒一人ひとりの進路研究に資する旅にしたい」という思いで海外修学旅行から「SDGs」と「防災学習」「地域研究」といったテーマを設定した福岡・熊本・鹿児島を巡る、バス移動による修学旅行に変更しました。生徒には「探求のタネを探しに行こう」という言葉でそれを伝えました。探求とは、自分の力をどこで・どんな問題の解決のために役立てられるか考えることです。この旅で見つけたことを「きっかけ」に種が芽吹くことを期待しています。

今回の修学旅行では、「島原にコロナを持ち帰らない」ことを死守するために、朝夕の検温やバスの乗降時等の手指の消毒を徹底しました。生徒たちもマスク着用を徹底し、この旅を通して「新しい生活習慣」も定着してくれたように思います。ひとりの感染者も出なかったことに胸を撫で下ろしています。保護者の皆様には大変感謝申し上げます。今後とも学年団一同74回生の進路実現に向けて力を尽くして参りたいと思います。

☆生徒の感想(一部抜粋)

●4日間で留学生との福岡市内フィールドワークや熊本水プログラム、防災プログラムなどたくさんの研修があり、同じ九州内に住んでいても今まで知らなかったことを学んだり、今まで以上に興味が湧いたり、とてもよい機会となりました。私は英語を聞いたり話したりするのは好きで、得意だと思っていたけれど、留学生との市内探求フィールドワークで、留学生の英語を話す速さに驚き、最初は上手に話すことができませんでした。しかし、チームみんなで協力しながらミッションをクリアしていくごとに、どのように話せば留学生に言いたいことが伝わるのかが分かり、少しずつ英語で言いたいことを表現できるようになりました。何事もやってみることが大事だと改めて気づきました。この研修で、今まで以上に英語への関心が深まり、将来、海外に留学してみたいと思いました。

●私はこの修学旅行に行くまでは、SDGsは政府など大きな団体が動かないと取り組めないと思っていたし、身近ではないものだと思っていました。しかし、熊本県での水に関する取り組み・被災地での取り組みを見学して話を聞くうちに、SDGsは私たちでも取り組めるし、むしろ地域や個人一人ひとりの意識によって少しずつでも解決できるんだなと思いました。この学びを生かして、私の身の回りで環境保全やSDGsの取り組みがないか考え、意識を高く持って取り組んでいきたいと思いました。



日本一記念碑除幕式

12月19日(土)、正門玄関にて、創立120周年記念行事の一環として、日本一記念碑除幕式を実施しました。星野同窓会長、金子PTA会長、渡邊校長及び日本一になった部活動の部長(剣道男女、レスリング、弓道男、陸上)が除幕を行いました。

